
自分価値

斉藤劉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自分価値

【Nコード】

N1533U

【作者名】

斉藤劉

【あらすじ】

自分というものを価値という言葉で見たとき

（前書き）

少し、自虐な物語です。

「文字数（空白・改行含む）1000字で書く」という目標のもの書かれたものです。

自分はという人間なのだろう。

そう言う事を考える自分はおかしいのかもしれない。

だからと言って否定しないし、それどころか自分の事を棚に上げている人間よりはましだと思っている。

自分に関して思ったこと。

それは「きっと自分は心配されなくてよい人間」という事だった。怪我をしても、ものすごくしんどくても、苦しんでいても、何があつたとしても親は心配しない。どれだけ練習で足が痛いとしても親はそんな事無視して背中を踏んでくれとか言ってくる。どれだけ頭痛で苦しんでいてもどうせ水分不足、寝不足だと言って済ます。どれだけ身体がだるくても米を炊いて、部屋をかたずけると言ってくる。どれだけ精神的に苦しんでいてもム力つくことを言ってきて、それに起こったらそんな言い方するなと言ってくる。

つまりは自分のことなどどうでもいいのだ。

抱き締められたり、頭をなでられたり、優しい言葉をかけられたりする程の人ではないという事なのだ。

なら、そうならもうどうでもいい。自分がどれほど苦しんでいようとどうでもいい。自分はそういう人間なのだから仕方がないのだ。だから誰も自分のことなど心配などしたりしない。

優しい言葉をかけてくれるのは人間関係を保つため。怪我でも走ろうとする自分を止めてくれるのはもっとひどくなつたときに面倒だからなだけ。

どうせ心配などされていない。心配などされるほどの人間ではないのだ。それほどの価値しかない人間なのだ。

「価値」という言葉を使うのは少し嫌な気がするが、「価値」という言葉以外にぴったりにくる言葉が見つからない。

自分は価値だけで見られる人間なのだ。

価値がないとわかった瞬間に見捨てるのだ。

それは正しい。間違っていない。

ならば、自分はそれを受け入れるしかないのだ。

自分はどうでもいい人間なのだ。

無理してもいい、いや、無理してでも動いていないといけない人間なのだ。

親のために、ともに過ごしている人間のために自分とはまるこことが許されない。

苦しむことも、休むことも何も許されない。

ただ我武者羅に自分を犠牲にして、全てに対して動かないといけないのだ。

自分のことなど考えず、ただ自分以外の物事に気を使って他人の害にならないように生きてかなければならない。

ただ、我武者羅に他人のために生きる。

それが自分が唯一見いだせる価値なのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1533u/>

自分価値

2011年10月8日18時07分発行